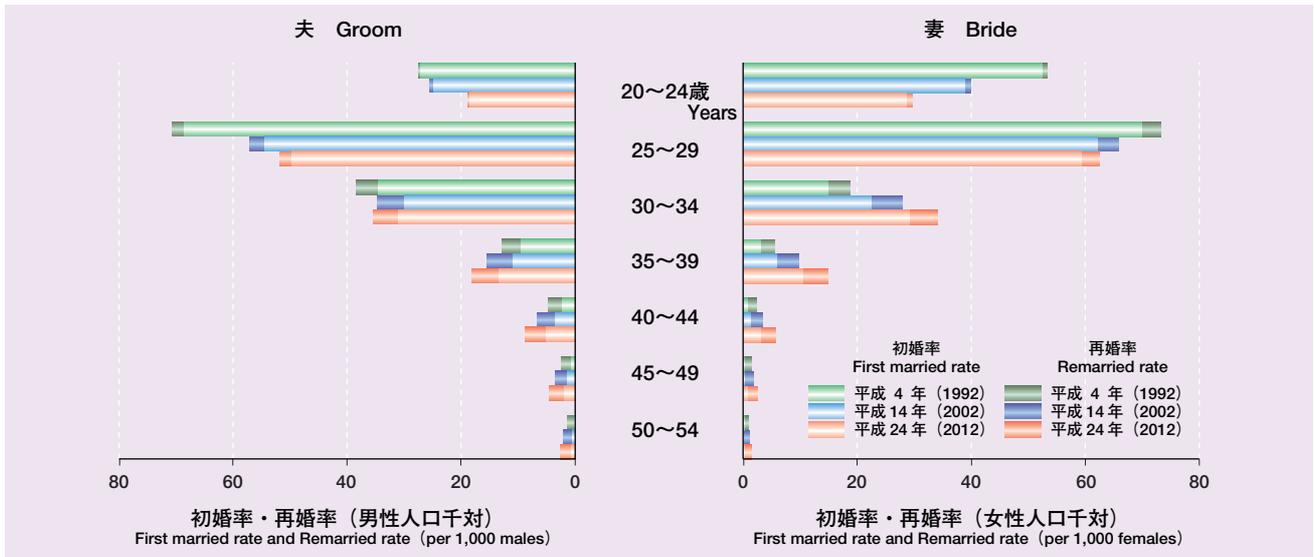


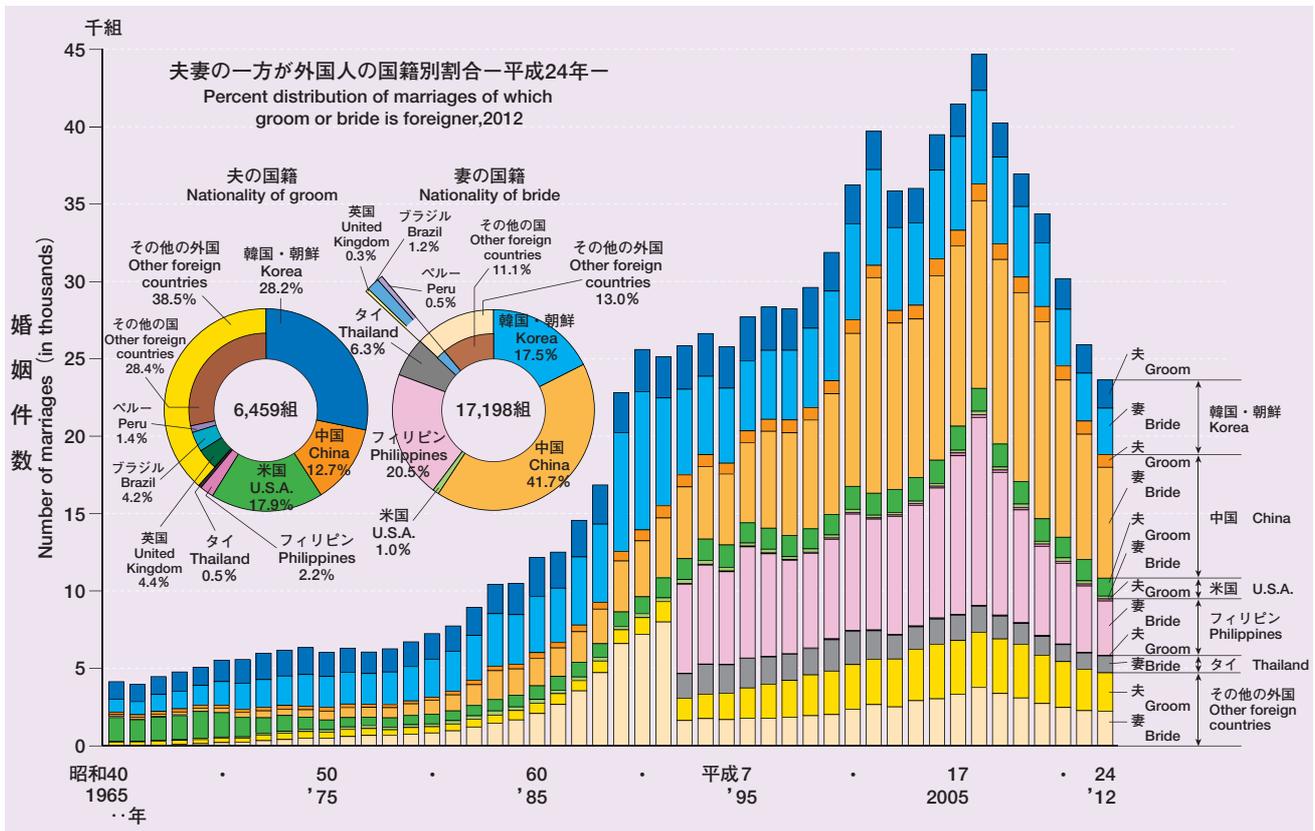
妻の20～24歳の初婚率は大きく低下する一方30歳以上は上昇

結婚生活に入ったときの年齢階級別にみた初婚率・再婚率(人口千対)の年次比較—平成4・14・24年—
Comparison of first married rates and remarried rates (per 1,000 population) by age, 1992・2002・2012



注：各年に同居し届け出たものについての集計である。

夫妻の一方が外国人の国籍別婚姻件数の年次推移—昭和40～平成24年—
Trends in marriages of which groom or bride is foreigner, 1965—2012



注：フィリピン、タイは、平成4年から調査しており、3年までは「その他の外国」に含まれる。

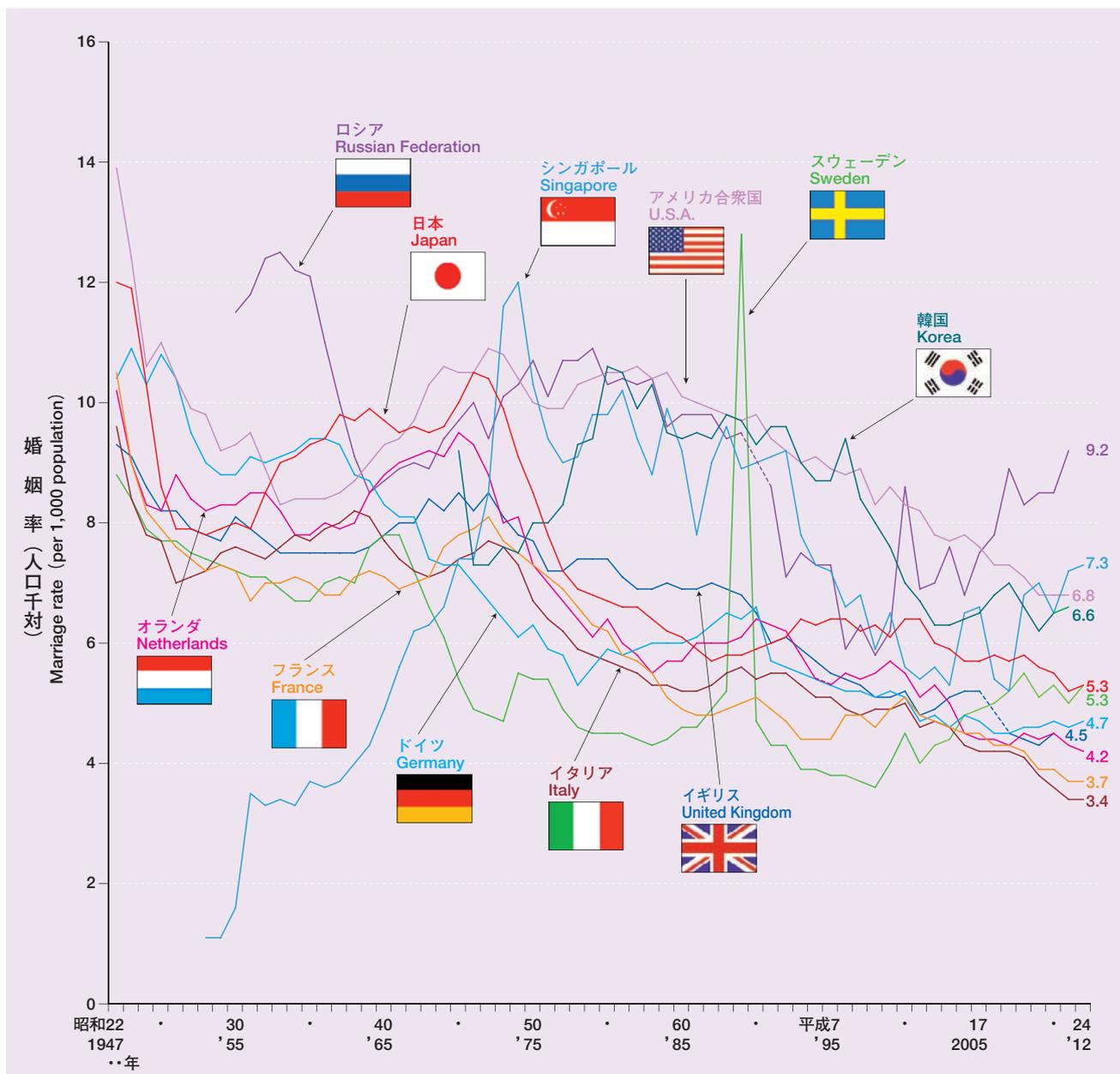
結婚生活に入ったときの年齢階級別にみた初婚率(人口千対)について、平成24年を4年、14年と比較すると、夫は25～29歳での低下が大きく、35～39歳以上の各階級ではいずれも上昇している。妻は20～24歳で大きく低下し、30～49歳までの各階級ではいずれも上昇している。また、再婚率(人口千対)も、夫、妻ともに35～39歳以上の各階級でいずれも上昇している。

夫妻の一方が外国人の婚姻件数の年次推移をみると、平成24年は2万3657組で、前年より2277組減少しているものの、昭和40年の4156組と比較すると約6倍になっている。また、妻が外国人の婚姻件数が約73%を占めており、これを妻の国籍別にみると昭和40年以降は韓国・朝鮮が最も多かったが、近年は中国が最も多い。一方、夫が外国人の婚姻について夫の国籍別にみると、昭和46年以降、韓国・朝鮮が最も多くなっている。

我が国の婚姻率は、近年、ヨーロッパ諸国と比べて高い

婚姻率の年次推移—諸外国との比較 1947～2012年

Marriage rates in selected countries, 1947—2012



注：点線は数値なし。
 イギリスの1970年まではイングランド・ウェールズの数値である。
 ドイツの1990年までは旧西ドイツの数値である。
 ロシアの1990年までは旧ソビエト連邦の数値である。
 以下は暫定値である。
 アメリカ合衆国1993～1996年
 フランス2011、2012年
 ドイツ 2012年
 イタリア2012年
 オランダ2012年
 イギリス2010年

資料：UN「Demographic Yearbook」
 Eurostat「Population and Social Conditions」
 韓国統計庁資料

我が国と諸外国の婚姻率（人口千対）を比較したものである。

我が国は、1957年から上昇傾向にあったが1971年をピークに急激に低下し、近年は横ばい傾向となっている。2012年は前年より増加し、ヨーロッパ諸国に比べ高くなっている。

ただし、ヨーロッパ諸国では出生に占める嫡出でない子の割合が多いことから、婚姻率を比較する場合に注意が必要である（＜参考＞参照）。

* スウェーデンの1989年の大きな突出は、年金制度の改正により駆け込みの婚姻が急増したためといわれている。

＜参考＞Reference

出生に占める嫡出でない子の出生割合の国際比較

Proportion of illegitimate births in total live births in selected countries

国 Country	年次 Year	割合 (%) Percentage
日本 Japan	2012	2.2
韓国 Korea	2012	2.1
フランス France	2011	55.8
ドイツ Germany	2012	34.1
イタリア Italy	2011	23.4
スウェーデン Sweden	2012	54.4
イギリス United Kingdom	2012	47.6
アメリカ U.S.A.	2012	40.7

注：アメリカは暫定値である。
 資料：Eurostat「Population and Social Conditions」
 U.S. Department of Health and Human services
 「National Vital Statistics Reports」
 韓国統計庁資料